

令和2年度 事業報告書

令和2年1月1日から 令和2年12月31日まで

一般社団法人まがたま

1. 今年度の総括

社会支援を目的として、後に非営利組織への変更を目指して、収益性と運営管理を両立させる。完全非営利型への移行を検討するが、寄付や会費導入多難。

2. 事業別収支

事業	収入	支出	収益
まがたま[事業共通]	0	4,299,298	△4,299,298
貸スペース	497,232	298,650	198,582
私設私書箱[小規模事業者支援]	2,580,569	622,159	2,993,191
社会支援	169,100	1,046,227	△883,197
災害支援	(120,000)	(738,407)	(△618,407)
農業支援	(49,100)	(51,572)	(△2,472)
動物愛護	(0)	(76,738)	(△76,738)
視覚障害者	(0)	(0)	(0)
地域文化	(0)	(100,580)	(△100,580)
国際支援	(0)	(85,000)	(△85,000)
営業収支計	4,281,682	6,266,334	△1,990,722
営業外収支	2,000,015	23,780	1,976,235
合計	6,281,682	6,266,334	△14,487

3. 各事業の概要

まがたま[事業所共通]

各事業にかかる共通の運営費を管理。持続化給付金に支えられたこともあり、費用面で従来の支援活動を大幅に縮小することは避けられた。とはいえ、今年度は設備費用経費に加え、コロナ禍支援にかかる費用支出も大きかったとみられる。

貸スペース

コロナ禍により利用各団体の活動自粛によって事業収入が伸び悩む。

私設私書箱

法人化による信用とコロナ禍自粛の影響もあり安定的な収入増加。収益事業のみに限らず、今後は小規模事業者支援を目的とする。

社会支援

災害支援

コロナ禍により九州水害支援には現地に出向けない分、遠方からできる策を模索。今後は災害支援システム構築を計画のため、資金と営業の必要性がある。

農業支援

活動自粛もあり、想定していたイベントは中止が多かった。コロナ禍においての農家の現状把握と支援がこれからの課題である。

動物愛護

認定 NPO 団体アークの定期的な活動支援を続ける。島根県出雲で起きた多頭飼育放棄への支援などのように、臨時活動に備える準備が課題。

視覚障害者

当面は、活動が滞る予定。

地域文化

コロナで影響を受けた人への支援活動が中心となった年度。帰国できない外国人などの緊急支援に取り組んだ。従来通りの文化維持や非営利団体の活動支援を目的とする支援も可能な限り継続。ビッグイシュー基金やみんなの玉手箱（東成区）、伊弉諾神宮の三大神楽祭、西成炊出し支援など。

4. 活動実績

2020年	事項	場所	項目
1月12-13日	台風19号災害支援	長野市津野/赤沼	災害支援
1月17日	阪神淡路大震災1.17のつどい	神戸東遊園地	災害支援
1月24日	ラッキーランカ スリランカ支援	ラッキーランカ	まがたま
2月1日	レスキューアシスト講習会	東成ボラセンター	まがたま
2月2日	真備町写真洗浄@あらいぐま大阪	大阪市東住吉区	災害支援
2月15日	コクヨ ミーティングテーブル	バーターハウス	貸 SPACE
2月16日	真備町写真洗浄@あらいぐま大阪	大阪市東住吉区	災害支援
2月22日	京都援農隊	京都府亀岡市	農業支援
4月22日	お百度参り	石切劔箭神社	災害支援
4月25日	みんなで考えよう 自然災害と減災!	コロナのため延期	災害支援
5月2日	無料テイクアウト!ランカカレー親子	ラッキーランカ	災害支援
7月23日	南阿蘇保存水	ロハス南阿蘇	災害支援
7月27日	水害緊急支援 淡路玉ねぎスープの素	ロハス南阿蘇	災害支援
7月29日	炊き出し弁当 7月分 The Soup Kitchen Program	ラッキーランカ	災害支援
8月31日	炊き出し弁当 8月分 The Soup Kitchen Program	ラッキーランカ	災害支援
9月5日	みんなで考えよう 自然災害と減災!	台風のため中止	災害支援
9月21日	国際交流 万願寺釣り&けん玉		農業支援
	スリランカ子供たちへのけん玉寄贈	マガタマスペース	国際交流
10月15日	マスク販売	岡山県新見	農業支援
10月14日 -24日	ARK 手伝い	ARK	動物保護
10月24日	ARK 手伝い	ARK	動物保護
10月25日	淡路調査	池上農場	農業支援
10月31日	ARK 手伝い	ARK	動物保護
11月14日	ARK 手伝い	ARK	動物保護
11月21日	島根多頭飼育崩壊支援	島根保健所	動物保護
11月22日	animation soup 20周年企画	animation soup	地域支援
11月28日	ARK 手伝い 12月26日まで	ARK/篠山	動物保護
12月22日	炊出し容器 1万個	釜ヶ崎実行委員会	地域支援

5. 今後の事業計画

まがたま[事業所共通]

コロナ禍で収益が安定しないことが予測される。収益事業からの資金移譲に頼らぬ独立性を考慮して、社会活動の質を高めて寄付金や会費収入を充実させる。

貸スペース

低水準での事業収入がしばらくは予想される。コロナ禍で在宅が余儀なくされ、コミュニティの必要性を見直す内容の企画を検討。収益性は見込めないが、社会活動支援の場として、貧困支援やその活動団体への利用目的を広げる機会。

私設私書箱

在宅時間が増したことによる利用者の動向をつかむ。収益性に限らない開業支援などの社会のサポートとしての役割を見直す。

貸スペースと私書箱を管理する人材を確保する。

社会支援

災害支援

支援の独自性を高めるために、災害支援システム構築を手掛ける。幾度となく検証して利便性を高める。幅広く利用してもらうことで収益も見込まれ、資金的なサポートにも及ぶ。さらなる収益が見込まれれば、炊出し支援をオリジナルキッチンカーにより実現し、レストランシェフなどの連携や被災地食材支援も絡めた活動。

農業支援

年間を通しての農業支援活動を計画する。コロナ禍で見通しが立ちにくい状況であるが、収穫物の販売やイベント等で収益を企画検討する。

動物愛護

認定NPO アークの定期的な活動支援を継続。見学会や里親会などを通して動物愛護の周知活動を企画運営。加えて、同団体の英国留学システムを提案。

視覚障害者

事業の見直しの必要性がある。

地域文化

年間行事ごとに協賛して、地元や地方文化維持や非営利団体の活動支援を強化する。活動の成熟度を高め、補助金申請など取り入れた継続性のある活動を目指す。収束しないコロナがもたらす課題への取組に可能な限り支援協力する。

まとめ

翌年度予定する建物改築。賃料収入など安定した資金確保による母体の安定化を図り、社会活動の深みをつける。収益事業と非営利活動を見直し、寄付金と会費収入による社会活動の収益バランスを保てるように検討する。